

事務事業名	資源〔2〕ごみ回収事業				担当	産業環境部 環境課 清掃係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8126		
施策名	3	廃棄物の抑制と適切な処理			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成7 年度～）		
予算科目	1.一般会計	4.衛生費	2.清掃費	1.清掃総務費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	平成7年10月より、ごみを減らし、資源を有効に活用するため、加えて焼却場及び最終処分場の延命化を図るため、一般家庭から排出されるごみの分別方法を、従来の2分別から、資源を主体とした3種9分類18品目、芳賀地区エコステーションが稼動した平成26年4月からは、3種9分類16品目となっている。その内、資源〔2〕は1種3分類7品目である。 また、平成7年に真岡市資源回収事業協同組合が設立され、組合に資源〔2〕（新聞・雑誌・雑誌、ダンボール、牛乳パック、古着・古布、生きピン）の回収に対し負担金を交付している。 当事業は、真岡地区のみが対象であり、二宮地区は委託業者が収集運搬をしている。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 27年度実績 ・真岡地区内239箇所の資源ステーションに市民が排出した、資源〔2〕を真岡市資源回収事業協同組合が回収し、間屋等に売却する。 市は運営経費から売却代金を引いた差額を負担金（赤字補填分）として交付する。  28年度計画 ・前年度と同様。 真岡地区は真岡市資源回収事業協同組合、二宮地区は委託業者が資源〔2〕の回収事業を行う。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	
ア 負担金額	千円	13,593	11,374	9,836	9,363	13,000		
イ								
ウ								
エ								
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ・真岡市資源回収事業協同組合	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	
ア 運営経費	千円	25,263	25,263	25,460	25,460	26,000		
イ 資源〔2〕回収量	t	1,736	1,822	1,781	1,586	1,649		
ウ 人口（旧真岡地区）	人	64,913	65,028	65,037	65,104	64,274		
エ 資源〔2〕売却代金	千円	11,670	13,889	15,624	16,097	13,000		
オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・資源〔2〕の安定的な回収を図るため、市は必要な経費を真岡市資源回収事業協同組合に対し負担する。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	
ア 資源〔2〕回収量/人口（1人あたりの回収量）	kg	26.7	28.0	27.4	24.4	25.7		
イ 売却代金/資源〔2〕回収量（1kgあたりの売却単価）	円	6.7	7.6	8.8	10.1	7.9		
ウ								
エ								
オ								
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） ・資源化率の向上を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	
ア 資源化率〔（資源〔1〕・〔2〕）/全ごみ量〕	%	13.6	13.7	14.0	12.8	13.5		
イ								
ウ								
エ								
オ								
(2) 総事業費の推移		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	9,836	9,363	13,000
	一般財源	千円	13,593	11,376	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	13,593	11,376	9,836	9,363	13,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	2	2	2
		延べ業務時間	時間	48	48	120	120	120
		人件費計(B)	千円	202	195	507	503	503
トータルコスト(A)+(B)		千円	13,795	11,571	10,343	9,866	13,503	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理施設及び最終処分場の延命化を図るため、ごみの分別収集の必要性が生じた。</li> <li>・平成7年10月から資源を主体とする3種9分類18品目の分別回収及び適正処理を開始した。</li> <li>・分別収集を開始した際、資源〔2〕の回収を真岡市資源回収事業協同組合に依頼した。</li> </ul>
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の分別収集に対する意識が高まった。</li> <li>・売却代金が市場価格に左右されるため、負担金の増減がある。</li> <li>・平成25年4月から、生きピンとして四合ピン・二合ピンの回収を開始した。</li> <li>・資源〔2〕については、1種3分類7品目を回収している。</li> </ul>
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民から、回収回数の増を望む声あり。</li> </ul>

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・資源〔2〕を回収することにより、リサイクル意識の高揚や、資源回収を定着することになるので、市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・容器包装リサイクル法に基づく分別収集計画は、市において策定し、実施しなければならないので、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・市内に真岡市資源回収事業協同組合が設立され、資源〔2〕を依頼しているのので、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある ・資源〔2〕は、すべて回収されているので、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・リサイクル及びごみ減量化の意識が低下する。 ・真岡市資源回収事業協同組合への負担金を廃止すると、資源〔2〕のリサイクルが不可能となり、ごみ処理量が増大するので、廃止・休止ができない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・市は、運営経費から売却代金を引いた差額を、負担金として交付しているのので、削減余地がない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・負担金の支出事務であり、最少限度の経費のため、削減余地がない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・真岡市資源回収事業協同組合に対する負担金であり、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							